

東日本大震災から14年。コープデリグループでは震災発生直後から、被災地に寄り添った支援に取り組んできました。募金活動では、2019年度まで実施した「東日本大震災復興支援募金」の想いを引き継ぎ、原発事故の影響が今なお残る福島の復興を継続的に応援するため、2020年度から「ふくしま復興応援募金」に取り組んでいます。2023年度までにお預かりした募金による支援の様子をお伝えします。

「忘れない」「伝える」「続ける」「つなげる」

ふくしまの復興を応援しています

「ふくしま復興応援募金」は主にこのように活用されました

コープながの

福島県「災害復興寄附金」

福島県内の学校・社会教育施設の災害復旧、原子力災害による風評被害対策、医療体制の強化など、福島県が行う復旧復興の事業に活用されています。



防災・減災対策として、消防防災ヘリコプター（JAOP749）の活動に活用されています。画像は訓練の様子。

いばらきコープ

一般社団法人ふうあいねっと

福島県から県外に避難をされている方は約6万人。茨城県内では約2,300人の方が生活されています。長引く避難生活での困りごとや生活再建のサポート、避難者同士の交流などの事業に、募金が役立てられています。



ふうあいねっとが毎年3月に主催する「ふくしま未来につながる伝え続」では、「福島のみなさんの作品展」では、茨城県に避難しているの方の手作り作品などを展示したほか、交流が行われました。

コープデリにいがた

南相馬市放課後児童クラブ支援交流事業で活用

新潟県立大学、南相馬市と連携して、震災直後から南相馬市の子どもたちの支援プログラムを実施しました。市が運営する12カ所の児童クラブにお菓子を贈る活動のほか、市内の児童クラブを訪問し、交流しました。

※この事業は2024年3月で終了し、以降の募金はみやぎ生活協同組合・コープふくしまに送金しています



コープデリにいがたの組合員理事と職員が児童クラブを訪問し、紙芝居「かわいそ」やそのお話を読みながら、ワークショップなどを通して短い時間でしたが交流を深めることができました。

コープぐんま コープみらい コープながの

福島県「東日本大震災ふくしまこども寄附金」

東日本大震災では多くの子どもたちが親を失い、住み慣れた土地から離れなければならない子どもたちも多くいます。幼い心に大きな負担がかかった子どもたちに、震災前に抱いていたそれぞれの夢をあきらめることなく、着実に前に進んでいくことができるよう、長期的な支援を行っています。



福島市出身のエアレスパイロット室屋義秀さんをはじめとしたさまざまな講師を招き、親子でスポーツを楽しむながら、トップアスリートの技能を見たリ、経験談を聞いたりと、授業が楽しめました。

とちぎコープ いばらきコープ コープながの コープデリにいがた

福島県生活協同組合連合会「福島の子ども保養プロジェクト(コヨット!)」

福島第一原発事故で外遊びなどへの不安を抱える福島の子どもたちに、安心して屋外でのびのび遊べる機会を提供するとともに、保護者同士や支援者との交流の場を設け、子どもと保護者の心身両面からの保養を目指しています。県内外での週末保養や外遊びなどを実施しました。



福島の子どもやその家族を全国の生活協同組合の団体が受け入れ、外遊びなど思いっきり遊んでもらいました。

コープみらい

一般財団法人ふくしま百年基金「ふくしまの未来と女性応援ファンド」

募金をもとに、「ふくしまの未来と女性応援ファンド」を設置。福島の復興、とりわけコロナ禍でいっそう困難に直面している女性への支援活動に対する助成事業を行っています。助成団体は毎年公募・選定され、妊娠婦の悩み解消やつながりづくりのための交流の場の提供、障がい・要支援などの認定を持った女性の就業支援拠点の設置などに役立てられています。



助成先の一つである福島市の団体は、子育て支援センターの運営などを通じて、不安や困難を抱える母親に寄り添った支援を行っています。

「ふくしま復興応援募金」にご協力ください

2023年度は1,819万6,657円もの募金をお寄せいただき、誠にありがとうございました。引き続き、皆さまのご協力をお願いいたします。

募金方法

宅配：OCR注文書やeフレন্ズ、アプリなどで、下記の申込番号とご希望の口数をご記入ください。

1口100円 **286443**

【ポイント募金】
1口10ポイント **287024** 全ポイント(数量欄に1と記入) **287041**
1口100ポイント **287032**

店舗：レジまたは募金箱にて承ります。レジではポイントカードのポイントでの募金も承ります。

※1ポイント=1円。この募金は税務上「寄付金控除」の対象になりません

コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成を目指しています。



今回の取り組みは、目標11：

住み続けられるまちづくりを

につながっています。

